

## 平成 30 年度 事業報告

### 生活介護事業・就労継続支援 B 型事業（ポップコーン）

#### 1 はじめに

両事業とも個別支援計画に基づき支援を行った。

「生活介護」は新たに 3 名（医療的ケアが必要な重度の方 1 名）の仲間が加わり 29 名になりました。人数が増えたこともあり、今までの単なる人数分けではなく、（1 班）重度重複の仲間、（2 班）ある程度理解力があり意思疎通ができる仲間、（3 班）歩行ができる仲間という班分けでスタートしました。当初は仲間も職員も困惑、混乱の日々が続きましたが、3～4 ヶ月で落ち着いて活動に取り組むことができるようになりました。仲間にあった時間配分ができることで新たな活動内容に取り組めたり、仲間自身の要望に沿った取り組みも多く取り入れることができました。以下に班ごとの様子を紹介します。

1 班では、従来通りリトミック（音楽と手遊び）に力をいれました。

2 班では、「防災」について知りたいという仲間の要望に応じて、机上での学習ではなく防災センターへの見学、体験、そして発表を行ないました。防災を勉強できたという仲間もいれば、けむりの充満した部屋からの脱出、震度 5 の地震等の体験が楽しんだ仲間もいるなど、それぞれの楽しみ方やかかわり方には違いがあるものの、同一の目的を共有できたことの充実感を味わう経験になったと思います。

3 班では、山登り、プール、レクリエーションを多く取り入れました。また岐阜県教育文化財団主催の「tomoni プロジェクト」に参加し、プロのアーティストとチームを組んで芸術作品を製作し、清流文化プラザで発表を行ないました。製作している時の仲間の姿は今まで見たことのないものでした。プロの方の力で、私たちが引き出せなかった仲間の力を引き出してもらうことができ、素晴らしい作品ができあがりました。今回学ばせていただいたことを仲間反映させていきたいと思っています。

生産活動は、自主製品の製造販売、リサイクル活動（アルミ缶、ペットボトル）下請け作業を行ない給与も例年どおりの金額を支払うことができました。働く→社会との繋がり→給与→楽しい（おいしい、うれしい）というサイクルは根気強く続けています。

生産・療育活動をとおして仲間たちは確かな成長を見せてくれています。

「就労継続支援 B 型」作業は、下請け作業を中心に言いながらも、パウンドケーキの製造販売を月 1 回行った。下請け作業の手順、工程（冊子組み、袋入れ、宛名貼り）が同じ内容な為、職員が仕事を割り振るのではなく、仲間同士で話し合いながら進めていった。外出企画（外食、喫茶店、買い物）も仲間同士話し合いを重ねながら定期的に行った。

9 月から 1 名の仲間が加わり 4 名になった。しかし、11 月から 1 名の仲間については、体調不良の為に入院していたが年明けに病院にて亡くなった。

地域との関わりについては、毎月町内へアルミ缶リサイクル回収を実施した。ポップコーンふれあい祭りを開催し多くの方に理解していただく機会となった。また、寿楽苑の夏祭り、文化祭にも参加したり、岐北中学校、そしてサンビレッジ国際医療福祉専門学校との交流も行った。

## 2 各事業の取り組み

### 生活介護事業

重度・重複障害者を中心に生産活動や生活を通して発達を支援し、地域社会の中で生きがいを感じていけるように個々の障害に合わせた創作的活動を行った。

- (1) 身体等の介護
- (2) 入浴 (週 2 回)
- (3) 生産活動
  - ・オープン陶土工芸の雑貨製品、販売
  - ・画鋸・クリップ等の製品制作、販売
  - ・ビーズ製品制作、販売
  - ・アルミ缶、ペットボトルリサイクル
  - ・下請け作業
  - ・物品販売
- (4) 創作的活動
  - ・調理実習
  - ・リトミック、音楽活動
  - ・工作等創作活動
  - ・野菜作り
  - ・芸術活動
- (5) 外出
  - ・散歩、外食、公共施設 (図書館、プール)
  - ・季節を感じる外出
- (6) 送迎

### 就労継続支援 B 型事業

自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、生産活動その他機会を通して、その知識及び能力の向上のために支援を行った。

身体的に重度な方には、休憩、ストレッチをとることを進めるなど体調面を留意して行った。又外出活動を取り入れることで生活にメリハリができ、それが仲間達の活力に繋がった。

- (1) 生産活動
  - ・下請け作業 (1 ヶ所の会社)
  - ・ケーキ製造・販売 (月 1 回)
  - ・物品販売
- (2) 外出 (散歩・喫茶店・外食)
- (3) 送迎
- (4) 工賃

## 3 平成 30 年度 年間延べ利用者数及び開所日数

生活介護事業 (定員 30 名 平成 31 年 3 月 31 日 現在 29 名)

- (1) 開所日数 241 日
- (2) 年間延べ利用者数 6632 人 (1 日平均利用人数 : 27.5 人)

就労継続支援 B 型事業 (定員 10 名 平成 31 年 3 月 31 日 現在 3 名)

- (1) 開所日数 241 日
- (2) 年間延べ利用者数 408 人 (1 日平均利用人数 : 1.7 人)
- (3) 年間利用者日数 200 日以下人数 2 人 (欠席理由 : 他サービス利用)

#### 4 主な行事

- 4月 入所式
- 5月 いぶき祭り 岐阜県障害福祉事業所連絡会総会 サンビレッジ国際医療福祉専門学校交流会
- 6月 FC岐阜サッカー観戦
- 8月 寿楽苑夏祭り
- 9月 サンビレッジ国際医療福祉専門学校交流会
- 10月 交流運動会 FC岐阜サッカー観戦
- 11月 FC岐阜サッカー観戦 寿楽苑文化祭 岐北中学校交流会 ふれあい祭り
- 12月 愛護バス事業 クリスマス会
- 1月 新年会 新成人を祝う会

## 平成 30 年度事業報告

### 特定相談支援事業(ステップ)

#### ・活動報告

障害者ご本人やご家族の願いを汲み取り、その人らしく地域生活が送れるサービスを提案しつつ利用計画案を作成しています。

以前から思っていたことで、地域生活での余暇のすごしかたについては、あまりにも寂しく、移動支援を利用してヘルパーさんとの外出ぐらいしかなく、それを進めてはいたが 1~2 度利用されて終わってしまうケースが多かった。そこで今回ポップコーンの仲間二人がそれぞれ移動支援を利用してヘルパーさんと共に、同じカラオケ店で遊んでもらった所とても楽しかったようです。もう少し仲間を増やしての試みもしてみたいと思っています。

問題が出てきた時は、思いに寄り添いながら関係機関とも連携を取って問題解決にあたっています。

#### ・障害者扱い件数

利用計画案作成 45 件

モニタリング報告 57 件

合計 102 件

### 障害児相談支援事業

#### ・扱い件数

利用計画案作成 1 件

## 平成 30 年度事業報告

共同生活援助事業所（グループホーム）

ふぁみりいポップ

入居者 5名

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーンの開所日に合わせて変更有

### 大切にしたこと

- ・入居者の第二の自宅としてくつろげる場になるように努めました。
- ・必要に応じて保護者と密に連絡をとりあいました。
- ・地域の方との交流をもつため、自治会活動等に参加しました（職員）。

### 具体的な支援内容

- (1) 共同生活援助計画の作成
- (2) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
  - ・入居者の安全・安心を第一にして介助しました。
  - ・てんかん発作をもっている入居者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
- (3) 趣味やお楽しみの時間の提供
  - ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビやDVDやパソコンを用いました。
  - ・入居者によってソフトブロック、絵本、布絵本、カラーボール、情報誌、タブレット端末などを利用しました。
  - ・仲間の誕生日祝いや季節の行事など、月に1度イベントを企画しました。
- (4) 日常的な相談や話し相手
  - ・日常の中で話し相手になりました。
- (5) 食事の提供
  - ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
  - ・その日の献立を仲間が見やすいように掲示しました。
- (6) 健康管理・金銭管理の手助け
  - ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
  - ・必要に応じて、内科や皮膚科、歯科受診に同行しました。
  - ・服薬、与薬管理を徹底しました。
- (7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助
- (8) 緊急時の対応
- (9) 日中活動の場等との連絡・調整
  - ・仲間の状態等の情報を紙やFAXでポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。

## 一日の流れ

<b>夕方</b>	16時	帰所・入浴	<b>翌朝</b>	6時30分	起床
	18時15分	夕食		7時	朝食
	19時	自由		8時	出発準備
	21時30分	リビング消灯		9時15分	出発
	23時	個室消灯			

## 尿管カテーテル留置への対応

8月初旬に入居者1名が県病院にて尿管カテーテル留置。

→ご家族と密な連携をとりながら、グループホーム復帰に取り組みました。

8月下旬 ポップコーン利用再開

11月中旬 グループホーム利用再開 11月は月に1泊。

12月は月に2泊。

1月は週1泊、2月は週2泊、3月は週3泊。

→ご本人の状態に対応しながらご家族やポップコーンと連携しつつ、少しずつ宿泊日数を増やしてきました。

※新年度4月から週4泊に復帰しました。

## 年間の記録

平成30年

- 3月29日 お花見
- 4月1日 **地域** 排水路の清掃参加（職員）
- 5月15日 3周年記念イベント
- 5月27日 **地域** ごみゼロ運動参加（職員）
- 6月7日 板屋川ほたる観賞とお菓子買い
- 7月8日 **地域** 板屋川クリーン作戦参加（職員）
- 7月30日 誕生日会 手巻き寿司づくり ケーキデコレーション
- 8月5日 **地域** 排水路の清掃参加（職員）
- 8月27日 映画会 お菓子 ジュース ノンアルコール飲料
- 9月25日 誕生日会 鮭のキッシュ ロールケーキデコレーション
- 10月29日 誕生日会 焼肉 ケーキデコレーション
- 11月18日 **地域** クリーンシティ運動参加（職員）
- 11月22日 映画会 お菓子 飲み物
- 12月25日 誕生日会・クリスマス会 宝さがし

平成31年

- 1月21日 新年会 桜餅 桜茶
- 2月2日 誕生日会・節分 鬼に豆まき 餃子の皮でデザート
- 3月7日 パンケーキ作り

## 平成 30 年度事業報告

### 短期入所事業所（ショートステイ） ほたる

開所日 月、火、木、金の夕方から翌朝

※祝日はお休み

※ポップコーン（日中活動施設）の開所日に合わせて変更有

#### 受入実績

※利用登録者 22 名（ポップコーン利用者 21 名、その他 1 名。平成 31 年 3 月 31 日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	24	25	25	24	30	22	31	28	27	27	26	24	313
開所日数	16	16	17	18	18	15	17	16	16	15	15	16	195

利用者数は、のべ人数

#### 大切にしたこと

- ・安心して過ごしていただけるように、仲間一人ひとりの生活の流れや職員の関わり方に注意を払いました。
- ・日ごろから保護者との連絡を密にし、必要なときに話し合いをもちました。
- ・家庭の緊急時は受け入れに努めました。
- ・他施設に通所されている方も、外泊体験として若干名受け入れました。

#### 具体的な支援内容

- (1) 食事・排泄・入浴等日常生活の介助
  - ・利用者の安全・安心を第一にして介助しました。
  - ・てんかん発作をもっている利用者には、発作時の転倒による怪我などの未然防止に細心の注意を払いました。
- (2) 趣味やお楽しみの時間の提供
  - ・ゆったりした時間の中でくつろげるよう、テレビや DVD やパソコンを用いました。
- (3) 日常的な相談や話し相手
- (4) 食事の提供
  - ・健康に気を配った献立、心をこめて調理しました。
  - ・その日の献立を仲間が見やすいように掲示しました。
- (5) 健康管理・金銭管理の手助け
  - ・気候に合わせた室温、衣服、寝具を心がけました。入浴方法も気候に合わせて調整しました。
  - ・服薬、与薬管理を徹底しました。
- (7) 夜間における安全確認や身体介助、排せつ介助
- (8) 緊急時の対応
- (9) 日中活動の場等との連絡・調整
  - ・仲間の状態等の情報を紙や FAX でポップコーン（日中活動施設）と毎日共有しました。

一日の流れ

<span style="border: 1px solid black;">夕方</span>	16時	帰所・入浴	<span style="border: 1px solid black;">翌朝</span>	6時30分	起床
	18時15分	夕食		7時	朝食
	19時	自由		8時	出発準備
	21時30分	リビング消灯		9時15分	出発
	23時	個室消灯			